

原告本人尋問証言概要

◆ 宮内正蔵

2012年12月の総選挙時のNHK報道が、二大政党に対峙するのは第三極という見せかけの対立を作り上げ、共産党や社会党についての放送は少なかったことに疑問を持ち、受信料支払いを凍結した。

NHKから受信料の支払い督促を受け、奈良地裁で裁判に発展した。

その後、NHKに対する今回の裁判を起こした理由は、NHKのニュース報道、選挙報道番組に疑問を持ったからである。2016年7月の参議院選挙で、NHKの選挙報道番組が少なかったこと、国民にとって重要な問題—暮らし、医療、消費税、原発問題などをあまり取り上げなかった。NHKは、放送法4条に則って自ら国内番組基準を定めている。これを遵守するのは受信者・国民に対する義務である。

2015年、2016年の年度末3月に参議院総務会で付帯決議がされて、そこにはNHKは国民の信頼を回復するように、放送法を守るようにと書かれている。NHKはこの付帯決議を生かした運営をしていないことが残念である。

◆ 木村宥子

昨年10月22日に行われた天皇の即位の礼、正殿の儀、NHKは朝から晩までライブ放送しかつ何遍も繰り返し放送して、ムードを盛り上げるのに一生懸命だった。11月14日、15日に行われた大嘗祭については朝と晩に放送した。政権が戦前への回帰を狙い、そのためにこの即位の礼を利用した。それにNHKが異常に加担した。

大嘗祭は天皇が神になるという宗教儀式であり、現憲法下での天皇は「日本と日本国民統合の象徴」であることと矛盾する。政府は27億円ともいわれる国費を大嘗祭のために支出しているが、憲法89条違反である。公共放送たるNHKは「天皇が神になる」ということを報じなかった。NHKは国民の知る権利に応えるべきで、政権を批判するというメディアの一番大切な義務を果たしていない。

天皇が現人神になり、天皇制に移行するようなことになったら、クリスチャンとしての自分の信仰を捨てさせられることになりかねない。戦前・戦中にもどるようなことはあってはならない。今抵抗しなければならない。

◆ 高桑次郎

日本郵政グループがかんぽ生命保険を不正・不適切に販売し続けていた問題を取りあげたNHKの番組クローズアップ現代+の「郵便局が生命保険の販売、郵便局員の告白」に対して、郵政グループがNHKに3度にわたり抗議をし、NHKがそれに屈した。

NHKは続編の番組を計画し、ネット上で視聴者から情報を募るという取材方法を取ったけれど、郵政からの抗議に応じて、ネット上の取材動画を削除した。また、続編の放送予定を延期した。続編は1年以上遅れて放送されたが、この間、かんぽ不正販売でによる被害者が増えた。

NHKの経営委員会は、郵政側から送られてきた苦情の文書にしたがって、NHK上田会長を

嚴重注意し、その旨を郵政グループに伝えた。

郵政グループのNHKへの抗議、及びこれを受け入れたNHK経営委員会は、放送法3条（放送番組編成の自由）に違反するものである。

◆ 平川邦昭

日韓徴用工問題について、NHKの報道は政府の見解をそのまま伝えることが多い。

新日鉄住金に賠償を命ずる韓国大法院の判決に対する河野外相発言「本件は、1965年の日韓請求権協定で完全かつ最終的に解決済み」をそのまま放送し続けた。

政府見解は、あくまで一つの見解にすぎない。弁護士・学者有志の声明は、韓国大法院の判決を支持し、この機会に徴用工問題を根本的に解決しようという内容であるが、NHKはニュースでこれを報道しなかった。

1991年参議院予算委員会で、外務省の柳井条約局長が、日韓請求権協定で、個人の請求権は国内法的な意味で消滅させるものではないと答弁しており、これは最近の政府見解「完全かつ最終的に決着済み」とは異なっている。

NHKによって専ら時の政府見解だけが伝えられ、その他の必要な情報を伝えられないまま世論が形成されていくことに腹立たしさを覚え、心を痛めている。

放送法4条を遵守するには調査報道が欠かせない。NHKは調査報道を通じて、放送受信者に必要適切な情報を提供する報道機関になってほしい。

◆ 齋藤紀彦

昨年8月から10月にかけて行われた国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」の「表現の不自由展・その後」についてのNHKの報道が、国民・視聴者の知る権利を侵害していることを隠す役割を果たしている。すなわち、9月5日クローズアップ現代「『表現の不自由展・その後』中止の波紋」は、補助金を出すことを考え直すとの菅官房長官の表明を報道しなかった。政府が批判されかねないことを報道しないという決定的な問題があった。

8月から9月にかけて、この問題について44件のウェブニュースがあったが、通常ニュースはわずか4件だけであったことは、前線の記者は沢山のニュース原稿を書いているにもかかわらず、多くの視聴者が観る通常ニュースにはしないという、政権への忖度がはたらいている。

NHKは政権の戦前回帰・戦前美化の姿勢をきちっと分析し検証して正しい報道をしてこなかったことに大きな問題を感じている。日本を戦争する国にしてはならない。

「桜を見る会」についての国会審議では、安倍首相の酷い答弁にもかかわらず、あたかも理路整然と答弁しているような映像を流して怒りを覚える。NHKには、視聴者・国民とともに、信頼される公共放送を作っていこうという姿勢が欲しい。

以上